

[西方音楽館友の会主催コンサート 2023 年度前半期] (第 8 回西方音楽祭以降)

- 5月14日(日) 15:30 ~ クアルテット・オチエアーノ～ガット弦による弦楽四重奏～
ヴァイオリン：廣海 史帆、大鹿 由希 ヴィオラ：伴野 剛 チェロ：懸田 貴詩
CD「A. ギロヴェッツ：弦楽四重奏曲」では、レコード芸術誌準特選!!! ハイドン、メンデルスゾーンそして、ギロヴェッツの作品を、作曲された当時の音色、世界観でお楽しみください。
- 6月4日(日) 15:30 ~ G.Ph. テレマン「バリ四重奏曲集 vol.2」
古楽アンサンブル「ムジカ・レセルヴァータ」
バロック・ヴァイオリン：小野萬里 フラウト・トラヴェルソ：国枝俊太郎
5 弦チェロ・ピッコロ：高橋弘治 チェンバロ：岡田龍之介
テレマンの傑作「バリ四重奏曲」を、生き活きとしながらも心安らぐムジカ・レセルヴァータの演奏でお楽しみください。
- 7月23日(日) については、中面をご参照下さい。

[西方音楽館友の会主催コンサート 2023 年度後半期]

- 10月1日(日) 15:30 ~ 久元祐子 ベートーヴェン ピアノ・ソナタ全曲演奏会シリーズ第 1 回
- 10月22日(日) 15:30 ~ ベートーヴェン ヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会シリーズ第 2 回
ヴァイオリン：廣海史帆 フォルテピアノ：平井千絵
- 11月12日(日) 15:30 ~ 渡邊順生 チェンバロリサイタル
ラブレッシュ・チェンバロ で J.S. バッハの作品
- 12月16日(土) 15:30 ~ 国枝俊太郎 笛の旅
フラウト・トラヴェルソ&リコーダー：国枝俊太郎 チェンバロ：岡田龍之介

2024 年

- 1月21日(日) 15:30 ~ バッハ=踊るいのち vol.2
ジルバーマンピアノ：武久源造 バロックダンス：岩佐樹里
- 2月未定 ベートーヴェン チェロとピアノのための初期作品 vol.2
チェロ：高橋弘治 フォルテピアノ：未定

西方音楽館友の会会計報告

- 2022 年第 7 回西方音楽祭～ 8 月までのコンサート収支
クラウドファンディングで支援総額 1,218,000 円+コンサート収入 534,400 円=1,752,400 円
クラウドファンディングにかかる支出 451,776 円+コンサート支出=1,888,225 円
収入-支出=-135,825 円 (←西方音楽館友の会資金より補てん)
- 2022 年 9 月～ 12 月までのコンサート収支
コンサート収入 355,600 円 コンサート支出 763,623 円
収入-支出=-408,023 円 (←西方音楽館友の会資金から補てん)
- コンサート以外の収支
 - ・2022 年度会費を納めた方 A 会員 30 名 B 会員 43 名 合計 73 名 520,000 円
ご寄付 31,200 円 うどん・カレンダー販売益金 42,583 円
クラウドファンディング締め切り後のご支援 60,000 円
収入合計 653,783 円
 - ・2022 年コンサート以外の支出 会報製作・郵送 他 合計 109,502 円
- 2022 年第 7 回西方音楽祭～ 12 月まで
総収入合計 2,761,783 円 総支出合計 2,761,350 円 総収入-総支出=433 円
※ 尚、2022 年 1 月～ 3 月のコンサート収入 259,600 円 支出 475,352 円
収入-支出=-215,752 円 は、一般財団法人西方芸術振興財団より支援していただいたため、この度の収支には含めませんでした。

一般財団法人西方芸術振興財団へのご寄付 2022 年 1 月～ 2022 年 12 月まで

1. 用途を問わないご寄付 合計額 1,020,000 円
2. 西方音楽館友の会へ 合計額 50,000 円
3. 楽器置き場(エントランス改修費) 合計額 200,000 円
4. 楽器置き場又はチェンバロ購入費 合計額 1,000,000 円

近い将来 2 段鍵盤の良質のチェンバロをホールに常設したく考えておりますが、そのためにはエントランスを、安全に楽器が出ておける空間に改修する必要があります、以上のご寄付の内、3. および 4. のご寄付を、エントランス改修費に当てさせていただきます。極力出費を抑えて、簡単な改修を行います。

こ・ぼ・れ・話

囃みしめるとするめのように、
味わい深い音楽。
聴いて聴いて聴きまくと、
骨董の目利きならぬ、
音楽の耳利きになれるかと

中新井紀子



2023. 1.

木洩れ陽の窓から No. 28

西方音楽館友の会会報

編集・発行人 中新井紀子

西方音楽館

322-0601 栃木県栃木市西方町金崎342-1 TEL 0282-92-2815 Web <http://wmusic.jp>

西方音楽館友の会コンサート 記念すべき第 100 回!!!

中新井紀子

2012 年 2 月 12 日、西方音楽館に「木洩れ陽ホール」と「馬酔木の蔵」をオープンし、第 1 回目のコンサートを開催してから、2023 年 2 月 11 日のコンサートで第 100 回目となります。

この間、ピアノ、フォルテピアノ、チェンバロ、小型パイプオルガン、クラヴィコード、ヴァイオリン、チェロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、フルート、クラリネット、オーボエ、歌、ギター、リュート、篠笛、パーカッション、等々、様々な楽器のコンサート(ダンス付きも)を開催してまいりました。

演奏家の皆様は、田舎のこの小さなホールでのコンサートを快く引き受けてくださり、また、聴きにいらして下さる方々も年々増え、コロナ禍にあっても、奇跡的に、コンサートの開催を続けることが出来ました。演奏して下さった皆様、聴衆の皆様、経済的にご支援くださった皆様、そして何よりも西方音楽館友の会会員の皆様、役員の皆様には、心より感謝申し上げます。

人間の脳には、潜在意識の中で自動的に計算する「統計学習」という機能が備わっているとのこと(「音楽する脳」大黒達也著 朝日新書)。つまり、生まれてからこれまでのすべての体験が無意識の内に脳に記憶され、類に従って集計され、頻度が即座に計算されるらしいです。音楽を聴いたり、演奏したり、作曲したり、という音楽活動においても、この機能は重要な役割を果たしています。

例えば、クラシック音楽をたくさん聴いている人は、それまでの統計学習により、高い頻度でクラシック音楽が記憶に刻まれており、初めて聴くクラシックの曲でも、予測できる音進行が豊富なため理解することが容易となります。しかし聴き慣れていない人は、予測が難しく、理解が容易ではないということになります。

ところが、知り尽くすほど知ってしまうと脳は「飽きる」とのこと。そのため、予測から外れた情報を欲するようになり、ありきたりの演奏では飽き足らず、優れた演奏家による、えっ!!!と意表を突く、しかしながらなるほどと唸ってしまうような解釈に、耳が釘付けになり、深い感銘を覚えることとなります。音楽を良く知っている作曲家が、新しい語法、新しい手法、新しい音世界を常に追求しているのも、このような訳からと言えます。

西方音楽館友の会では、知れば知るほど味わい深い音楽、するめのように囃み応えがある音楽、そんな音楽を(時折、囃み易い音楽も取り混ぜつつ)これからもお届けしたいと思っております。

西方音楽館友の会第 100 回コンサートは、西方音楽館常設フォルテピアノの銘器を使用し、昨年 J.S. バッハ：無伴奏チェロ組曲全曲演奏を終了したチェロの名手高橋弘治さんが、「ベートーヴェン：チェロとピアノのための初期作品 vol1 ～モーツァルトへのオマージュ～」と題するコンサートを企画なさいました。また、3 月下旬から開催する第 8 回西方音楽祭は、フォルテピアノをメインテーマに掲げ「フォルテピアノってどんな楽器? チェンバロとどう違うの?」というタイトルで開催します。

西方音楽館が誇るフォルテピアノの銘器を知る好機ともなります。ぜひ聴きにいらしてください。